



# 三鷹中央通信

2017年 Vol.24  
夏号

## 三鷹中央リハケアセンター『運営理念』

「在宅生活への復帰」と「自立支援」を目指したりハビリを行います。

障害をお持ちの方の人間としての尊厳を守るお世話をいたします。  
明るく家庭的な雰囲気で、地域や家庭との  
結びつきを重視した運営を行います。

## 三鷹中央病院『医療理念』

地域医療の第一線を担う病院であることを誇りにもち  
いつでも どなたでも診療いたします。  
常に親切・安心・質の高い医療の提供を心がけ、  
事故のない病院をめざします。



三鷹中央病院は、平成29年1月  
に日本医療機能評価機構3rdG:  
Ver1.1の認定を受けました。



医師 谷川 仁美

こんにちは。4月にふれあい診療所に赴任してきました、谷川仁美と申します。高3長女、高2長男、二匹の愛犬（愛らしい真っ黒なトイプードル）と三鷹に暮らしています。平成7年大分医科大学（現大分大学医学部）卒業。出身は長崎で、両親のルーツは五島列島福江島、隠れキリシタンの島です。

私は、学生時代に手話の活動を通して、障害のある方との交流が多く、人工内耳にあこがれて耳鼻科医になりました。3年目は悪性腫瘍の手術に明け暮れる日々も過ごしました。その後、結婚、出産、2児を育てながら、障害のある方と共に過ごす、という夢の実現のため、恩師鈴木康之先生（東京小児療育病院・みどり愛育園）のすすめにより、小児科医として再出発。一般小児診療と重症心身障害児（者）医療を半々くらいでやってきました。五島では聖マリア病院で離島医療も経験し、高齢者の方も幅広く診た時期もあります。

重症児（者）の福祉、医療についてはその黎明期から、非常に尊い歴史があります。自分が生きる意味、生きがい、この世での使命、お役目、皆さんこういったことをお考えになることがありますか？ 重症児（者）の方々の、生きる使命は何か？ 私はこのように考えています。「この方々には人を変える力がある。生きているお姿そのものが、命について人に考えさせる力を持っている。出会った人に生きる意味について考えさせることがこの方たちの使命だ」と。島田療育園はじめ、黎明期の施設の成り立ちを調べるうちに、私はすっかり歴女になりました。その土地に、建物に、人に、連綿と続く歴史があつて、今この時、この場所がある。

## ふれあい訪問診療所へ赴任してきて

すべての人は、小説にしていいだけの人生を生きている。

重症児（者）施設の福祉・医療がこれほど充実している国は他にありません（在宅は充実していませんが）。全国重症心身障害児（者）を守る会の三原則の1つ「最も弱いものを1人ももれなく守る」はこのことを象徴しています。

なぜ日本はこれほど、知的にも身体的にも重症な、物言わぬ、寝返りもしない方々を尊び、手厚く保護してきたのでしょうか？ この疑問に答えをくれたのは、松田一郎先生の「和の思想と生命倫理」というご講演でした。「日本は一度も占領されたことのない島国で、神道の全てのものに神が宿るという思想に、東洋の仏教、儒教が混じり合い、そのどれとも違う、日本独自の倫理観が作り上げられたのだ」。それを聞いて私の葛藤は解消し、そうか、日本人独特の倫理観が、この最も弱い人たちの尊さに気づき、手厚く守る、慈悲深さを生み出しているのだと納得しました。

在宅の世界に飛び込んだばかり、まだまだ皆様に語れるものはもっていません。が、超高齢化社会に向け、日本の福祉、医療は大きく変わらなければ乗り切れない、そんな危機感はひしひしと感じます。日本人独特的倫理観を持ち続けながら、戦後の混乱期を必死に乗り越えて今の日本を作つてこられた方々の、お一人お一人の歴史に思いを馳せながら、加齢や疾病で在宅医療を選択された方々に、尊敬と感謝の念を忘れず真摯に向き合っていく、私にできるのはそれだけだと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

※第32回重症心身障害児学会学術集会 教育講演1 松田一郎  
「和の思想と生命倫理」



# 嚥下内視鏡検査について

三鷹中央病院  
歯科医師 山下 まどか

当院は今年の4月より内視鏡検査を始めました。今回、誌面をお借りし、内視鏡検査について説明をさせていただきたいと思います。

口に入った食べ物や飲み物は、のどを通り、食道の入口から胃へと運ばれます。食道の入口のすぐ隣には呼吸する為の気管の入口があります。この気管の入口の蓋は普段呼吸している時は開いていますが、飲み込む時には食べた物が気管へ流れ込まない様に閉じる仕組みになっています。

しかし、加齢変化や病気によりこの仕組みが上手く働くなくなります。気管の入口の蓋を閉めるタイミングがズレたり、閉まり方が不十分だつたりすると、食べ物や飲み物が誤って気管の入口から気管に入ります。これを「誤嚥」といいます。

さて、この仕組みが上手く働いているのか、という事を調べる検査の1つに嚥下内視鏡検査（VE検査）があります。この検査には、鼻咽腔ファイバースコープ（軟性鏡）を使います（写真参照）。検査時は、鼻から細い観



察用の管を気管の入口付近まで入れた状態のまま、食べ物や飲み物を召し上がつていただき、嚥下（飲み込み）の状態を検査します。

この検査の利点は、造影剤が入った特別な検査食は必要なく、普段召し上がるべている食べ物・飲み物で検査ができる点です。また食べる前の、のどの状態を観察できる点です。尚、食べる前からどのように痰やつば等が溜まつていてする場合は、嚥下（飲み込み）の仕組みが上手く働いていないことが考えられます。もう1つの利点は、持ち運びやすいため、在宅の往診にも対応可能な点です。欠点は、鼻から管を入れる時に人はよつては違和感がある点です。

厚労省は平成27年の日本人の死亡原因を、1位が「悪性新生物（ガン）」、2位が「心疾患（心臓）」、3位が「肺炎」としています。そして、日本呼吸器学会は、「高齢者の肺炎の70%が誤嚥に関係していると言われている」と発表しています。

「最近よくムせる」「飲み込みに不安な事がありましたら、当院一度ご相談下さい。よろしくお願いいたします。

# 初めて介護に携わって

介護老人保健施設 三鷹中央リハケアセンター  
介護職員 松本 純

介護職員として働き始めて早7カ月経過しました。前職は民間企業の経理職で働いていましたが、体を動かし、社会貢献に繋がる職業に就きたいと思い、三鷹中央リハケアセンターにて介護職として働き始めました。

就業前に半年間、事前準備として職業訓練校にて介護の基本について学びましたが、学びと実際の実務とでは当然ですが全く異なり日々苦戦しています。初めに苦労した点として、人の体に触れ慣れていない為、介助する際の距離感に戸惑うということが挙げられます。体に触れすぎては失礼かもしれないという素人考えから当初は体を離して行つていました。声掛けについても、初めはどう声掛けすれば良いのかといふことばかりに気を取られ、声掛けのタイミングを失い、しそびれたりしていました。

学校で介護を学んでいたとき、介護はチーム

プレイと他職種連携することが重要であり、1人の何でもできるスーパーマンよりも、どの介助者が行つてもできるような介助方法を行うこと、看護師や理学療法士等の他職種と緊密に連携することが重要であると学びました。働いて実感しましたが、介助者1人で行えること、できることは時間的にも技術的にも限られていました。しかし、自分の考えだけに固執せず、他の職員や職種に相談して多角的な視点から見ていくことが重要であると痛感し、例えば居室担当の利用者様の日常の様子について、空いた時間に他職員に様子を聞いたり、助言を求める等、自分で完結しないよう意識を持つようになりました。

なりました。

また、一番難しいと感じたことは、利用者様お一人お一人に個性があり、アプローチの仕方が異なるという点で、声掛け1つ同じ対応ではないことに当初は驚きました。ある利用者様に上手くいった声掛けの方法が別の方には通用しないどころか不穏となる等逆効果となることもあります。画一的な介護にならないよう、利用者様の個性を加味・尊重した介助を徐々に行えるようになりたいと思います。

今後は利用者様により目標はそれぞれ異なる為、例えはリハビリによって身体機能を向上させ在宅復帰を目指す方や、現状維持を目的とする方など、施設に入所される目的は様々である為、その目的に沿うことができるような介助方法を考え実践できるようにしていきたいと思います。

また、介助にはアプローチの仕方が多様にあり、幾つもの正解があると思います。成功と失敗を積み重ねながら、常に現在の介助方法・アプローチの仕方について疑問を持ち続け、より利用者様の安全・安楽に繋がる介助を目指していきたいと思います。

最後に、当たり前のことではありますが、利用者様は1人の人間として尊厳があります。年月が経過するにつれ仕事に「慣れ」が生じた時も、前述のことを肝に銘じていつまでも初心を忘れずに接していく様子で、皆様よろしくお願いいたします。



## ◎三鷹中央病院

住所: 〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-23-10  
Tel: 0422-44-6161 (代) Fax: 0422-48-9009

☆患者様の訴えを素直に受けとめて、  
診療内容をわかりやすく説明し、最善の医療を提供します。

診療科: 内科・循環器内科・内分泌科・呼吸器内科・呼吸器外科・腫瘍内科・  
外科・消化器内科・消化器外科・肛門外科・脳神経外科・整形外科・  
皮膚科・泌尿器科・眼科・血液内科・神経内科・乳腺外科・  
リハビリテーション科・放射線科・麻酔科

### 人間ドック・特定検診・禁煙指導

診療時間: 月~土曜日 / am9:00 ~ 12:00 pm2:00 ~ 5:30  
日曜・祝日 / am9:00 ~ 12:00 (救急外来は24時間受付)

病床数: 一般病床 122床 (看護職配置基準 7対1)

その他: ふれあい診療所 Tel: 0422-79-1313  
三鷹ふれあい訪問看護ステーション Tel: 0422-48-6031  
ふれあいデンタルクリニック Tel: 0422-29-8242



## ◎三鷹中央リハケアセンター

住所: 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀9-2-7  
Tel: 0422-70-0700 (代) Fax: 0422-70-0701

☆心のこもった介護、看護、リハビリテーションを提供し  
「在宅生活への復帰」と「自立支援」を目指します。

ベッド数: 100床 (一般療養 100床)

4床室 / 19室 2床室 / 1室 個室 / 22室

施設設備: 機能訓練室 (207.00m<sup>2</sup>) 機械浴室 (男女別) 自立浴室

その他: 通所リハビリテーション (定員 60人) Tel: 0422-70-0700

訪問看護ステーション Tel: 0422-70-1055

居宅介護支援事業所 Tel: 0422-70-1066

## ◎ケアコート武蔵野

住所: 〒180-0023 東京都武蔵野市境南町5-10-7

Tel: 0422-39-0390 (代) Fax: 0422-39-0392

☆利用者の皆様にとっても、そして職員にとっても、  
楽しく生きがいの持てる施設づくりを目指しています。

入所数: 80床 (9ユニット)

事業内容: 特別養護老人ホーム 72床 (8ユニット)  
短期入所生活介護 8床 (1ユニット)

特徴: ○全室個室のユニットケアを実施します。

○「安心」「安全」「快適」な空間と人を大切にした  
サービスの提供に努めます。



## ACCESS



### 三鷹中央病院

#### JR中央線 三鷹駅(南口)

- 小田急バス ②「新小金井駅」行
- ②「武蔵境営業所」行
- ②「調布駅北口」行

『曙住宅・三鷹中央病院前』下車徒歩1分  
○タクシー (1区間)

### 三鷹中央リハケアセンター

#### JR中央線 三鷹駅(南口)

- 小田急バス ⑧「野ヶ谷」行
- 『MCC三鷹ビル前』下車徒歩1分

#### JR中央線 吉祥寺駅(南口)

- 小田急バス ⑧「調布駅北口」行

#### 京王線 仙川駅(北口)

- 小田急バス ①「三鷹駅」行
- 『三鷹農協前』下車徒歩1分

### ケアコート武蔵野

#### JR中央線 武蔵境駅(南口)下車(徒歩15分)

- 小田急バス ③「狛江駅・狛江営業所」行
- ④「吉祥寺駅」行

『井口新田』下車徒歩1分